

釧路労災看護専門学校 授業計画(シラバス)

| 科目名 | | 小児看護学概論 | | | |
|-------------|---|---------|----------------|---------------|--------|
| 科目分類 | 専門分野Ⅱ | 履修年次 | 1年次 | 履修時期 | 11月～3月 |
| 単位(時間数) | 1単位(30時間) | 講義時間 | 28時間 | 試験時間 | 2時間 |
| 担当教員 | 専任教員 | 実務経験 | 小児看護領域臨床実務経験あり | | |
| 科目目的 | 小児の保健医療の動向を学び、小児各期の特徴や小児看護の役割を理解する。 | | | | |
| 学習目標 | 1. 小児に関連する保健医療の動向を学び、子どもと家族を取り巻く環境について理解する。 2. 子どもの成長・発達の特徴について理解する。 | | | | |
| 回 | 授業内容 | | | 授業方法 | |
| 1 | 1. 小児看護の目指すところ 1) 小児看護の対象 2) 小児看護の目標と役割 2. 小児看護における倫理 | | | 講義 グループワーク | |
| 2 ・ 3 | 1. 小児と家族の諸統計 2. 小児看護の変遷 3. 小児看護の課題 4. 子どもの成長・発達 1) 成長・発達とは 2) 成長・発達の進み方 3) 成長・発達に影響する因子 4) 成長の評価 5) 発達の評価 | | | 講義 DVD視聴 | |
| 4～7 | 小児各期の成長と発達 ・新生児期・乳児期・幼児期・学童期・思春期 | | | 講義 DVD視聴 | |
| 8 | 子どもの栄養 | | | 講義 | |
| 9 | 家族の特徴とアセスメント | | | 講義 | |
| 10～ 12 | 子どもと家族を取り巻く社会 1. 児童福祉 2. 母子保健 3. 医療費の支援 4. 予防接種 5. 学校保健 | | | 講義 グループワーク | |
| 13・14 | 発表 | | | グループワーク発表 | |
| 15 | 試験 | | | | |
| 使用教材 | 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学①小児看護学概論 小児臨床看護総論 医学書院 | | | | |
| 参考文献 | 1. 小児看護学概論 子どもと家族に寄り添う援助 改訂第2版 江南堂 2. 新体系 看護学全書 小児看護学① 小児看護学概論 小児保健 メヂカルフレンド社 3. ナーシング・グラフィカ 小児看護学① 小児の発達と看護 メディカ出版 | | | | |
| 成績評価の方法 | 筆記試験 100点 | | | | |

| 科目名 | | 小児看護学援助論 I (生活援助技術) | | | |
|---------|---|---------------------|--|-------------------|--------|
| 科目分類 | 専門分野 II | 履修年次 | 2年次 | 履修時期 | 4月 ~7月 |
| 単位(時間数) | 1単位(15時間) | 講義時間 | 14時間 | 試験時間 | 1時間 |
| 担当教員 | 専任教員 | 実務経験 | 小児看護領域臨床実務経験あり | | |
| 科目目的 | 小児の健全な成長・発達のを促進するための子どもや家族の援助方法を理解する。 | | | | |
| 学習目標 | 1. 発達段階に応じた小児の栄養の特徴について理解する。 2. 小児の健全な成長・発達のを促進するための子どもや家族への援助方法を理解する。 | | | | |
| 授業計画 | 回 | 担当 | 授業内容 | 授業方法 | |
| | 1 | | 1. 新生児の養育および看護 1) 日常生活の世話 2) 事故防止 3) 感染防止 4) 家族関係の調整 5) 愛着形成 | 講義 | |
| | 2 | | 2. 乳児期の養育および看護 1) 日常生活の自立と世話(食事・排泄・着脱・睡眠・環境) 2) 遊びの支援 3) 事故防止 4) 乳幼児突然死症候群とその予防 5) 育児支援 | 講義 事例検討 | |
| | 3 | | 3. 幼児期の養育および看護 1) 日常生活の自立と世話(食事、排泄、清潔・衣服、睡眠) 2) 遊びと事故防止 3) 生活習慣と感染予防 4) 育児支援 | 講義 事例検討 | |
| | 4 | | 4. 学童の養育および看護 1) 学校生活への適応 2) 学習と遊び 3) 生活習慣と疾病予防 5. 思春期の看護 1) 二次性徴に伴う援助 2) 生活習慣と健康教育 3) 性・安全教育 4) 親への関わり | 講義 | |
| | 5.6 | | 6. 演習 1) 生活援助:衣服の着脱、おむつ交換 2) 調乳・授乳 3) 離乳食体験(ベビーフードの実際) 7. グループワーク * 幼児に向けた感染予防への提示物作成 * 1~2歳児を対象として、手遊びなど(ペープサート)の開発 | 演習 グループワーク | |
| | 7 | | まとめ 1~2歳児を対象とした遊びの発表 | | |
| | 8 | | 試験 | | |

釧路労災看護専門学校 授業計画(シラバス)

| | |
|---------|--|
| 使用教材 | 系統看護学講座 専門分野Ⅱ小児看護学① 小児看護学概論 小児臨床看護総論 医学書院 |
| 参考文献 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 岡田洋子 小児看護学1 小児と家族への傾倒的アプローチ第2版 医歯薬出版株式会社 2. 岡田洋子 小児看護学2 小児の主要症状とケア技術 医歯薬出版株式会社 3. 授乳・離乳がの支援ガイド 厚生労働省 2007 4. 食に関する指導の手引き 文部科学省 2010 5. 小林美由紀 これならわかる！子どもの保健演習ノート 診断と治療社 6. 木口チヨ他 イラスト小児の生活援助 文光堂 |
| 成績評価の方法 | 筆記試験 |

| 科目名 | | 小児看護学援助論Ⅱ(疾患に応じた看護) | | | |
|---------|-----------------------------------|---|-------|------|-------|
| 科目分類 | 専門分野Ⅱ | 履修年次 | 2年次 | 履修時期 | 4月～8月 |
| 単位(時間数) | 1単位(15時間) | 講義時間 | 14時間 | 試験時間 | 1時間 |
| 担当教員 | 医師 | 実務経験 | 小児科医師 | | |
| 科目目的 | 小児期に特有な疾病をもつ子どもの看護を理解する。 | | | | |
| 学習目標 | 小児期に特有な疾病と治療を理解する。 | | | | |
| 授業計画 | 回 | 授業内容 | | | 授業方法 |
| | 1 | I. 小児臨床総論 II. 染色体異常・胎内環境により発症する先天異常 1. 染色体異常(ダウン症候群) 2. 性染色体異常 I. 小児臨床総論講義 II. 染色体異常・胎内環境により発症する先天異常 1. 常染色体異常(ダウン症候群) 2. 性染色体異常 III. 新生児の異常 1. 低出生体重児の疾患(呼吸窮迫症候群) 2. 新生児仮死 3. 新生児の黄疸 IV. 系統別疾患 1. 代謝性疾患 2. 内分泌疾患 3. 免疫・アレルギー・リウマチ性疾患 気管支喘息 4. 呼吸器疾患 急性咽頭炎、クループ症候群、気管支炎、肺炎 5. 循環器疾患 心室中隔欠損、動脈管開存、心房中隔欠損、ファロー四徴症 完全大血管転位症、川崎病 6. 消化器疾患 食道閉鎖症、ヒルシュスプルング病、鎖肛、腸重積症 胆道閉鎖症 7. 血液造血器疾患 特発性血小板減少性紫斑病、血管性紫斑病 8. 悪性新生物 白血病、神経芽腫、ウィルムス腫瘍 9. 腎・泌尿器および生殖器疾患 ネフローゼ症候群 10. 神経疾患 11. 運動器疾患 V. 小児特有の感染症 ・細菌感染症 ・ウイルス感染症 ・真菌感染症 | | | |
| | 8 | 試験 | | | |
| 使用教材 | 系統看護学講座 専門分野Ⅱ小児看護学① 小児臨床看護各論 医学書院 | | | | |
| 成績評価の方法 | 筆記試験 | | | | |

| 科目名 | | 小児看護学援助論Ⅲ(状況に応じた看護) | | | |
|---------|---|---------------------|--|---------------|--------|
| 科目分類 | 専門分野Ⅱ | 履修年次 | 2年次 | 履修時期 | 10月～2月 |
| 単位(時間数) | 1単位(30時間) | 講義時間 | 28時間 | 試験時間 | 2時間 |
| 担当教員 | 看護師・専任教員 | 実務経験 | 小児看護領域臨床実務経験あり | | |
| 科目目的 | 健康障害の様々な状態にある対象を理解し、健康回復に向けた看護を実践できる基礎的能力を養う。 | | | | |
| 学習目標 | 1. 小児期に多い特徴的な症状と緊急時の看護について学ぶ。 2. 疾患や入院・治療が小児およびその家族に及ぼす影響について理解できる。 3. 小児看護に必要な看護技術について理解し、その方法が解る。 4. 処置を受ける患児に向けたプレパレーションやディストラクションについて考えることができる 5. 小児の疾患や発達段階に応じた看護過程が理解できる。 | | | | |
| 授業計画 | 回 | 担当 | 授業内容 | 授業方法 | |
| | 1 | 看護師 | I 主要症状別看護 1. 発育期からみるからだと病気 フィジカルアセスメントと方法 2. 一般状態・啼泣の観察ポイント(腸重責症) 3. 痛みのアセスメントと看護(頭・目・鼻・のど・耳・胸・腹・手足など) 薬剤を用いた・用いない看護 | 講義 | |
| | 2 | | 4. 呼吸・循環器系の症状の観察と看護 1) 症例から観察及び看護のポイントを深める 小児気管支喘息、敗血症 | グループワーク 講義 | |
| | 3 | | 5. 発熱の原因と主な疾患の特徴と看護 1) 症例からその特徴を理解する 髄膜炎、脳炎、インフルエンザ、突発性発疹、細菌性食中毒、尿路感染、扁桃炎、単純ヘルペス、ヘルパンギーナ、プール熱、溶連菌感染症、マイコプラズマ肺炎、川崎病 | 講義 | |
| | 4 | | 6. 消化器系の症状を示す小児の看護 7. 水分・電解質異常を示す小児の看護 ・脱水症状となりうる病態と症状 ・脱水のレベルと症状 ・電解質異常と症状 ・ノロウイルス感染症のアセスメントと看護の実際 | グループワーク 講義 | |
| | 5 | | 8. 浮腫・血液・貧血を示す小児の看護 9. 神経・筋症状を示す小児の看護 ・けいれんの病態生理 ・各けいれん発作の特徴と対応(強直性発作、間代性発作) | 講義 | |
| | 6 | 専任教員 | 10. その他の症状を示す小児の看護 ・発疹を示す疾患(麻疹、風疹など) ・黄疸のメカニズム、新生児黄疸、光線療法 II 看護技術・看護過程 1. 病気・障害を持つ子どもと家族の看護 1) 病気・障害が子どもと家族に与える影響 2) 子どもの健康問題と看護 | 講義 | |

釧路労災看護専門学校 授業計画(シラバス)

| | 回 | 担当 | 授業内容 | 授業方法 |
|------|---------|---|--|-------------|
| 授業計画 | 7 | 専任教員 | 2. 子どもの状況(環境)に特徴づけられる看護 1) 入院中の子どもと家族の看護 2) 外来における子どもと家族の看護 3) 在宅療養中の子どもと家族の看護 4) 災害時の子どもと家族の看護 | 講義 |
| | 8 | | 3. 検査・処置を受ける子どもの看護 1) 与薬 2) 輸液管理 3) 検体採取 4) 経管栄養 5) 呼吸症状の緩和 4. 子どものアセスメント 1) アセスメントに必要な技術 2) 身体的アセスメント | 講義 DVD視聴 |
| | 9 | 5. 小児看護技術 1) プレパレーション・ディストラクション | 講義 DVD視聴 | |
| | 10 | 6. 小児における疾病の経過と看護 1) 慢性期にある子どもと家族の看護 2) 急性期にある子どもと家族の看護 3) 周手術期の子どもと家族の看護 4) 終末期の子どもと家族の看護 | 講義 | |
| | 11 | 7. 小児の看護過程 1) 事例を用いた看護過程の展開 | 講義 | |
| | 12 | 2) 援助計画の立案 | 講義 | |
| | 13 | 8) 事例を用いたロールプレイ | ロールプレイ | |
| | 14 | ロールプレイの振り返り 援助計画の追加・修正 | 協同学習 ジグソー学習 | |
| | 15 | 筆記試験 | | |
| | 使用教材 | 1. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ小児看護学①小児看護学概論 小児臨床看護総論 医学書院 2. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ小児看護学②小児臨床看護各論 医学書院 | | |
| | 参考文献 | 1. 症状から見た小児看護 メジカルビュー社 2. 小児看護2006-8 ヘルス出版 3. ここだけは知っておきたい小児ケア 総合医学社 4. こどもの病気の地図帳 講談社 5. 小児看護2010-1:ヘルス出版 6. 小児救急外来診療マニュアル 医学芸術社 7. 小児ケア Q&A 総合医学社 8. 小児救急の落とし穴 CBR 9. 小児看護学 第8版 子どもと家族の示す行動への判断とケア 日総研 10. 新体系 看護学全書 小児看護学② 健康障害をもつ小児の看護 メヂカルフレンド社 11. チームで支える!子どものプレパレーション 中山書店 12. 小児看護 ケアモデル実践集 看護師が行う子ども目線のプレパレーション へるす出版 13. プレイ・プレパレーション導入・実践の手引き 日総研 14. 写真でわかる 小児看護技術 インターメディカ | | |
| | 成績評価の方法 | 筆記試験 | | |